





# 誤嚥性肺炎予防

～チェックシート・援助計画書の有効性～  
 小籠なでしこ苑  
 池谷 彩  
 細谷 久美子

## 研究の背景・方法


- ・ショートステイの利用者様で、誤嚥性肺炎のリスクが高い方が目立つ
- ・直接、命にかかわるケースも多い



◎ショートの利用者様にとっても、  
 日常的な課題である！

## 研究方法

- ・チェックシートを作成し、シートにて利用者の状態を評価、危険度を点数化する
- ・点数により、援助計画書を作成し、モニタリングを行う
- ・介助者が共通認識を持ち、予防的介入が行われる



## 誤嚥性肺炎チェックシート

- ・誤嚥に関する6つの項目を考案  
 (①姿勢 ②食物を見て認識 ③食物の取込み・飲み込み ④咽喉に送込むまで ⑤食道内に送込むまで ⑥胃の中に落ち着くまで)
- ・対象者の状態を観察し、チェックシートへの評価
- ・合計点数が10点以上の際、誤嚥性肺炎に伴う援助計画書の作成

## 誤嚥性肺炎チェックシート

項目	内容	スコア	合計
項目1	姿勢	正しい姿勢が保たれている	1点
項目2	食物を見て認識	食物を見て認識している	2点
項目3	食物の取込み・飲み込み	食物の取込み・飲み込みがスムーズ	3点
項目4	咽喉に送込むまで	食物が咽喉に送込まれている	4点
項目5	食道内に送込むまで	食物が食道内に送込まれている	5点
項目6	胃の中に落ち着くまで	食物が胃の中に落ち着いている	6点

## 研究対象者：A様 ・ 要介護度5

<状態>

- ・食事形態：研究開始時は常食
- ・上下、義歯使用
- ・食事中に咽がみられる
- ・痰がらみあり
- ・離床時は常に傾眠状態
- ・チェックシートで14点



計画書(1) 平成26年5月～7月

<課題>	<援助内容>
①水分を摂る際に、咽・痰がらみあり	①適量のトロミづけで、水分・汁物の提供
②寝起き時の水分での咽	②ベッド上での薬内服の場合は、予めギャジアップし、覚醒していただく
③口腔内の汚染	③正しい口腔ケアの施行 (ブラッシング、舌苔除去、義歯洗浄)

計画書(1) 平成26年5月～7月

<課題>	<援助内容>
④固形物で咽あり	④・大きい物は噛み砕けるよう、適切な大きさにカットし提供
⑤きちんとした食事の姿勢を保つことが難しい	・状態により、食事形態の変更 ⑤姿勢を整え、首が後屈した状態でないか等、留意する

モニタリング結果(計画期間:平成26年5月～7月)

<サービス内容>	<ニーズ充足度・サービス実施結果>
①適量のトロミづけをし、水分・汁物の提供	①トロミづけをすることで、咽込みが少しずつ軽減
②ベッド上での服薬時、きちんと覚醒していただき内服してもらう	②予め、ベッドのギャジアップをさせておくことで、咽なく内服できた
③食後の義歯・残存歯洗浄、舌苔の除去	③家族より、自宅での口腔ケア方法をショートでも同様に行って欲しいとの要望→指示通り施行。 口腔ケア時、時折少量の食物残渣あり

モニタリング結果(計画期間:平成26年5月～7月)

<サービス内容>	<ニーズ充足度・サービス実施結果>
④固形物は適切な大きさにカットし、提供・状態により、食事形態の変更	④常食での口の開き悪く、飲み込み不安・咽あり →副食を一口大に変更 ※5月上旬、食事中に咽・口唇チアノーゼあり ・・・Na.にて吸引施行
⑤姿勢を整える (極端に首が後屈していないか)	⑤食事中、徐々に首が後屈してしまう

★特記事項★  
5月上旬 夕食時に咽腫く吸引施行  
→翌日 朝食～ミキサー食へ、咽なし。  
→夕食～ミキサー食から主・粥、副:超刺みへ

計画書(2) 平成26年8月～10月

<課題>	<援助内容>
①咽による吸引の施行あり	①家族との相談、食事形態の適切な選択
②食事中(離床時)の首の後屈	②食事中の姿勢を正し、きちんと飲み込みができるように首の位置・向きを直す

計画書(2) 平成26年8月～10月

<課題>	<援助内容>
③口腔内に少量の食物残渣がみられることがある	③・義歯、残存歯のブラッシング、口腔内の拭き取り、口腔内のチェックを徹底
	・食物残渣が続く場合は、食事形態の変更を検討する



モニタリング結果(計画期間:平成26年8月～10月)

---

<p>&lt;サービス内容&gt;</p> <p>①家族と相談し、食事形態の適切な変更</p> <p>②食事中の姿勢を正し、きちんと飲み込みが出来るよう、首の位置に留意する</p>	<p>&lt;ニーズ充足度・サービス実施結果&gt;</p> <p>①(その時々で状態が異なる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8、9月→主:粥、副:きざみで問題なく食す</li> <li>・10月、自宅にて重篤発作あり。</li> <li>→自宅でペースト食、苑では3分一食に変更...問題なくほぼ全量摂取(10月末時点)</li> </ul> <p>②・咽の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦しい表情が少なくなる</li> <li>・飲み込み、やや良好</li> </ul>
--	---


モニタリング結果(計画期間:平成26年8月～10月)

---

<p>&lt;サービス内容&gt;</p> <p>③・歯菌、残菌のブラッシング、口腔内のチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物残渣が残る場合の食事形態の変更</li> </ul> <p>④咽・痰がらみがひどい場合に吸引の施行</p> <p><b>★特別実施</b></p> <p>①10月中旬 自宅にて重篤発作2回、自宅では、ペースト食</p> <p>②ショートステイ利用時(入居日)、日中・夜間ともに吸引なし</p>	<p>&lt;ニーズ充足度・サービス実施結果&gt;</p> <p>⑤・まだ時々、食物残渣がみられる→食事形態は様子見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔ケアにて、口腔内の清潔は保たれている</li> </ul> <p>⑥・吸引施行後の食事時の咽・痰がらみの軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時々、咽はみられる</li> </ul> <p>⑦ショート利用時(短期)、痰がらみ(+)により吸引施行→発作に罹患。家族の意向にて、首でも吸引OKとなる夕食前、11:30迄にて、吸引の施行。</p>
---	--

計画書(3) 平成26年11月～12月

---

<p>&lt;課題&gt;</p> <p>①食後、口腔内に副食の食物残渣がみられる</p> <p>②臥床時、食事時の痰がらみ</p> 	<p>&lt;援助内容&gt;</p> <p>①・口腔内の拭き取り、チェック、義歯・残存歯のブラッシング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミキサー食だが、きちんと飲み込めているのかを確認する</li> </ul> <p>②随時、吸引の施行</p>
--	---

モニタリング結果(計画期間:平成26年11月～12月)

---

<p>&lt;サービス内容&gt;</p> <p>①・口腔内の拭き取り・チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯菌、残菌のブラッシング</li> <li>・ミキサー食だが、必ず飲み込んでいるかの確認</li> </ul> <p>②・随時吸引の施行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内の確認</li> </ul>	<p>&lt;ニーズ充足度・サービス実施結果&gt;</p> <p>①食物残渣の減少した。ゆっくりではあるが、時間をかけて飲み込みもできている</p> <p>②家族より咽・痰がらみがひどい場合は吸引を行って欲しいと要望。</p> <p>時々、咽や痰がらみがみられたが、吸引を行う程ではなく落ち着いている</p>
---	---

研究結果

---

①チェックシートを利用することで・・・

- ・誤嚥リスクの高い利用者様を把握できた

②援助計画書を作成し、実施・モニタリングすることで・・・

- ・適切な食事形態の選択ができた
- ・食事中の姿勢(極端な首の後屈)を職員が意識し、飲み込みやすい姿勢を保つことができた

研究結果

---

- ・正しい口腔ケアの徹底で、口腔内の清潔を保ち、食後の食物残渣を減らすことができた
- ・徐々に解決すべき課題をクリアしていくことができた
- ③現時点において、誤嚥性肺炎を防ぐことができています

## 考察・まとめ

- ・職員間にケアの共通認識を持つことができた
- ・誤嚥の予防は、介助者の正しいアプローチが不可欠であり、それを一人ひとりが理解していくことの重要性を認識した
- ・利用者一人ひとりの状態をふまえた個別的ケアを作成したチェックシート等を活用し、継続したい
- ・食事や口腔機能改善アプローチによるQOLの向上を、短期間の利用の中で目指していきたい



た。

ご清聴ありがとうございました